



なんでも撒き

11/22 「国消国産」
秋のマルシェを開催!



女性会川辺ブロックは地元の新米や野菜を使用したカレーライスの振舞い、おでんの販売を実施!



ピッタソ賞
「ゆらっ子」5kg!!



焼き鳥

紀州漁場使用

紀州漁場使用

日高川営農販売センター
「みかんの重さ当てゲーム」

焼き芋カレー

綿菓子



Aコープかわべ店
野外市場

子どもたちに大人気!



国消国産とは?

国民が必要とし消費する食料は、できるだけその国で生産するという考え方。JAグループは「国消国産」の発信に努めており、10・11月を「国消国産月間」と定めています。

産直会
野外市場

産直商品をお買い上げの方限定で
お米盛り放題チャレンジを実施しました!

スタンプ3つで
Aコープ割引券と交換!スタンプ3つで
Aコープ割引券と交換!スタンプ3つで
Aコープ割引券と交換!

11/23 千葉ロッテファン感謝デー
紀州の特産品を販売!

ZOZOマリンスタジアムにて開催された千葉ロッテマリーンズファン感謝デー「MARINES FAN FEST 2025」に出展し、ミニトマト、豆類、スターチスなど農産物や梅干し、お菓子などの加工品を販売しました。会場には開始前から多くのロッテファンが訪れ、終始大賑わい。16品種・約1600点が全て完売しました。特に野菜類は午前中に売り切れ、梅干しの試食も大好評でした。持て帰れないお客様にもパンフレットを配布し、今後のリピートを期待しています。



11/27-28 印南町の日裏町長と
花き類、豆類、ミニトマトをPR

印南町の日裏町長とJA職員は名古屋青果株式会社と株式会社名港フラワーブリッジを訪問し、関係者に向けて今年産の花き類、豆類、ミニトマト等をPRしました。JA職員は「安定生産・安定出荷に向け、町と協力しながら頑張っていきたい」と挨拶し、生産資材の高騰など産地の状況についても説明しました。町長も、農業立町として今後もJAと連携し、地域農業の発展と安定生産に取り組む考えを示しました。



紀州地域本部 NEWS & TOPICS



11/26 青年部 対話集会を開催

青年部紀州地域本部はJA役職員との対話集会を開催し、青年部員とJA役職員ら合計約40名が出席しました。この対話集会は、JA運営に主体的に参加・参画を行うことが目的で、毎年実施されています。團栗部長の「4月の合併後、農協体制に変更があった中で、例年通り開催できることは非常に意義深いことです」という挨拶から始まり、合併によるスケールメリット、職員の人員配置、今後の広報活動に関することなど、計11項目の質問・要望が出されました。JA役職員が1つひとつ返答し、両者の間で理解を深めていただきました。

みなべいなみ支部

12/2 12/5 労働力交換の一環で
ありだ地域本部へ

他の地域本部の青年部と労働力交換を実施しており、6月にはありだ地域のみかん農家が紀州地域の梅収穫を手伝いました。今回はみなべいなみ支部の梅農家が、ありだ地域のみかんの収穫作業を手伝いに行きました。まだ試験的な取り組みですが、今後も拡大に向けて取り組んでまいります。



お正月に向け千両を出荷!

12月上旬に迎春用の千両の出荷作業を行い、関西、中京などの市場に出荷を行いました。千両は上向きに実がつくことから縁起物とされ、お正月の飾りに使用されます。近年ではレギュラーアウトドア以外に「ミニ千両」の出荷も行っており、フラワーアレンジメントに使用されるなど人気を集めています。中津花き花木部会の竹内部会長は「高温の影響で栽培に苦労しましたが、農家が丹精を込めて、良いものを揃えているので是非お正月の飾りとして使っていただきたい」と話します。

青年部活動

名田・塩屋班

11/18 なにわ花市場視察研修



青年部名田・塩屋班の5名が参加し、現地での視察を行いました。視察では、市場関係者との交流を深めるとともに、今後の市場情勢について意見交換を行いました。

10/30 食農教育in名田小学校



5月に児童と一緒に植えたおばけカボチャの収穫を行いました。カボチャは重さでクイズや玄関の飾りなどに使用され、皆さんに楽しんでいただきました。



6月に植えたサツマイモの収穫を行いました。児童たちは和やかな雰囲気の中、青年部員とともに楽しく収穫作業に取り組みました。



ブランドミニトマト 今年も食味良好!

11月上旬より、紀州地域本部オリジナルブランドの「赤糖房」「優糖星」「王糖姫」の出荷が開始しています。出荷は6月末まで続き、関西、中京、関東など全国各地へ出荷します。「赤糖房」は糖度8.5度以上、「優糖星」は糖度8.0度以上、「王糖姫」は糖度7.0度以上をクリアした高糖度ミニトマト。紀州地域本部ミニトマト部会では長年続くブランドを守るため、栽培に厳しい基準が設けられています。岩代部会長は「味にこだわって栽培しています。今年も抜群の食味に仕上がっており、消費者の皆さんに喜んでいただけると思います」と話します。



食農教育支援



JAでは、地域の子ども達の食農教育を支援しています。営農指導員をはじめJAの職員、青年部員、女性会員などが協力し、お手伝いしています。また、この活動は、JA共済地域貢献活動に係る助成金を活用しています。

12/11 みなべの梅学習

岩代小学校
全生徒35名



岩代小学校が取り組む「みなべの梅学習」の一環で、6月に収穫し塩漬けした梅を、しそ漬けにしました。今後は最終工程としてカップ詰め作業等が予定されています。



12/7

第1回 JAわかやま 紀州地域本部カップ争奪 ジュニアバレーボール大会

管内のジュニアバレーボールクラブを対象に第1回JAわかやま紀州地域本部カップ争奪ジュニアバレーボール大会を開催しました。印南町体育センターと印南小学校体育館で行い、Aグループ7チーム、Bグループ3チームが参加。会場は応援やチームの掛け声が響き渡り、目が離せない熱戦が繰り広げられました。



Aグループ優勝
南部バレーボールスポーツ少年団A



Aグループ準優勝
印南はまゆうA



Aグループ3位
川辺ひかりA



Bグループ優勝
南部バレーボールスポーツ少年団B



選手宣誓 印南はまゆう 山口 莉愛 主将



個人賞

優秀選手賞	
南部バレーボールスポーツ少年団	火縄 侑生さん
印南はまゆう	伊藤亜生夏さん
敢闘賞	
稻原ジュニアバレーボールクラブ	城 彩華さん
内原バレーボールクラブ	酒本 恋羽さん
川辺ひかり	藤本 和花さん
日高VBC	福田 紅梅さん
美浜ひまわり	片山 結奈さん

12/10

第1回 紀州地域本部 年金友の会 ゲートボール大会

川辺ゲートボール場にて年金友の会主催のゲートボール大会が開催され、10チーム53名が参加しました。会場には仲間を励ます声や、熱のこもった声が響き渡り、激戦が繰り広げられました。参加者同士の親睦を深めることができ、楽しいひとときとなりました。



優勝 由良チーム



準優勝 ちどりチーム



3位 美浜チーム

フレッシュマート 特産品直売所

からのお知らせ

赤糖房

王糖姫

優糖星

販売中!



ご家庭用のパック入り
から贈答用にお使い頂ける箱入りの商品まで
用途に合わせた商品をご準備しています。

スターチス、かすみそう

スターチスは色とりどりの商品を販売しており、かすみそうは白色がメインでピンク色なども販売中。



地元の農家さんが
出品している人気商品です！

販売中!

うめ

●病害虫
ノコメトガリキリガ（通称 モモノハナムシ）
近年、一部地域で、開花期に異常発生がありました。症状は、花を食べられ、着果しなくなります。被害のあった園地では対策をおこなってください。

（ミツバチ設置前）
モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 収穫前日まで 3回以内
※ケムシ類としてフェニックス一口アブル(4,000倍／前日／2回以内)
●土づくり（根を元気に！・安定生産のための重要な対策です）
秋～冬は土づくりの時期です。
特に石灰は酸性の矯正だけでなく、梅は石灰の吸収量が多いため、根・枝・葉等様々な器官に多く利用されます。毎年必ず施用してください。
堆肥（牛糞・もみ殻堆肥2t／10a）と土壤改良剤（苦土入りセルカ又は苦土石灰100kg／120kg）ミツバチの設置・保護について（結果実安定生産のための重要な作業です）



みつばち保護のお願い
回収日の朝に入口を閉めると、写真のように熱さで、みつばちが死んります。

被害のひどい園では、フェニックス一口アブル(200倍／開花期まで／1回)とスカシバコンで密度を減らしましよう。

産地全体の設置で効果が高まりますので、みなさんのご協力をねがいます。

被災のひどい園では、フェニックス一口アブル(200倍／開花期まで／1回)とスカシバコンで密度を減らしましよう。

スカシバコンを設置しましょう!!
スカシバコン（50～100本／10a）
スカシバコンの設置面積は、当初に比べ大幅に減っています。

これに伴い、コスカシバの被害が各地で増加傾向にあります。

これ以上、被害を拡大させないためには、農家1人1人の設置が重要です。

スカシバコンを設置しましょう!!
スカシバコン（50～100本／10a）
スカシバコンの設置面積は、当初に比べ大幅に減っています。

これに伴い、コスカシバの被害が各地で増加傾向にあります。

これ以上、被害を拡大させないためには、農家1人1人の設置が重要です。

一度置いた場所は絶対に動かさないでください。

受粉不良園では、必ずミツバチを設置しましょう。（1箱／10a）

・梅の開花期間中（貸し出したミツバチの回収が済むまで）は、ミツバチ保護のため、農薬は、散布はしない。

ミツバチは雨の降らない日の12℃以上・風速が3m以下で活動が活発になります。

受粉不良園では、必ずミツバチを設置しましょう。（1箱／10a）

・梅の開花期間中（貸し出したミ

ツバチの回収が済むまで）は、ミツバチ保護のため、農薬は、散布はしない。

一度置いた場所は絶対に動かさないでください。

なお、みつばちの設置期間中は、農薬散布をしないでください。

果樹柑橘



●土づくりと樹勢回復

近年、夏は高温・干ばつで樹勢が低下し、柑橘栽培において大変厳しい環境が続いています。樹勢の回復をはかることは来春の着花に大きく影響します。葉が黄化している園では有機堆肥の投入や客土を行って通じて、これ以上、被害を拡大させないためには、農家1人1人の設置が重要です。

被害のひどい園では、フェニックス一口アブル(200倍／開花期まで／1回)とスカシバコンで密度を減らしましよう。

土壤が酸性になると肥料の吸収が悪くなるので石灰を投与してください。また、冬場は降雨が少なく夏場よりも乾燥しやすくなります。乾燥状態乾燥状態が続くと落葉など樹勢の低下を招き、春の着花が少なくなるなどの影響がありますので、灌水をするようにしてください。

●中晩柑類の収穫・予措・貯蔵

中晩柑は貯蔵と流通までに時間を要するため収穫前までには必ず腐敗防止剤を散布してください。また果実の取り扱い方次第では腐りや虎斑症を助長しますので収穫時には注意して採果し、適正な予措・貯蔵を行ってください。（表1）

また、乾燥しやすい倉庫や乾燥状態が続く場合は打ち水など温度を保

つ対策を行ってください。

●剪定の実施

連年結果樹では間引き主体の軽めの剪定を行ってください。表年樹の母枝の多い樹では間引きを行うとともに新梢の発生を促進させ、反対に母枝の少ない樹は軽めの剪定もしくは無剪定でも結構です。また、中晩柑では樹が高いほど葉剤がかかりにくいためカイガラムシ類が多く発生しますので混み合った不要な枝の

表1 中晩柑類の最適貯蔵温湿度目安

品種	予措による減量歩合 (%)	温度 (°C)	湿度 (%)	注意事項
伊予柑	35	67	85	換気不足に注意。
不知火	34	68	8590	貯蔵は新聞紙で包み、過乾燥に注意し取り扱いは丁寧に。長期貯蔵の際は鮮度保持フィルム等を活用。
ポンカン	34	56	85	高温多湿条件で予措戻り、す上がりに注意。
甘夏	35	57	9095	ポリ個装がよい(乾燥で虎斑症多発)
八朔	不要	57	90	予措及び温度が8°C以上になると虎斑症を助長するので注意する。

整理を行ってください。近年、温暖な気候が続いている影響でアカマツカイガラムシの発生が多い状況です。剪定してからカイガラムシ防除を行うことも対策の一つです。

●病害虫の防除

カイガラムシ類（特にサンホーボーカイガラムシ）の発生している園地では収穫が終了し樹勢が回復してからマシン油乳剤95%の30～45倍又はハーベストオイル、アタックオイル60倍を散布してください。ただし、樹勢低下園やゆう早生・不知火は気象状況により枝枯れを助長する恐れがあるため3月中旬にハーベストオイル又アタックオイル80倍を散布してください。

野菜



○摘果（花）作業

1月から2月にかけては、開花から収穫までの日数が栽培期間中でも長くなることから、着果負担が大きく、草勢を維持し辛い時期となります。対策として、適期収穫を行うと共に、草勢に合わせた摘果（花）作業を実施してください。特にアイコでは2月以降に開花する房を摘果（花）することにより、春先に収穫する果実の肥大を促すことができます。

○葉かび病・すすかび病

草勢の弱りやハウス内湿度が高く

なると発生量が多くなります。適度な換気に努めると共に早めの摘葉等を行い、予防的な薬剤散布も行なってください。

対策としては、草勢の強弱を無くし、適期収穫に努めると共に、結露対策として、早朝の加温により温度差を無くし、さらに循環送風機等でハウス内の空気を対流させることや、朝の換気のタイミングを調節するなどの対策を取ってください。

【共通】

○病害虫対策

摘葉を適期に行なうことや、葉かび病等の病気の予防になるだけなく、コナジラミ等の害虫の卵や幼虫を施設外へ持ち出すことで、発生密度を減らすことが出来ます。また、

果実に光が良く当たることによる果実肥大の促進、着色スピードの向上、着色ムラの軽減、糖度の上昇、さらには農薬がより掛かりやすくなるなど、多くのメリットがあります。病害虫が発生していない場合でも定期的な薬剤散布を実施してください。また、循環送風機の使用は予防効果がありますが、病害が発生してからは被害を拡大させますので注意してください。

○(1)黄化葉巻病

施設で越冬し、春先に再発する可

能性があるため、必ず予防的な薬剤散布を行ってください。

黄化葉巻病が発病した場合は、直ちに株元から切断又は引き抜き、地中へ埋めるか、ビニール袋で密閉して燃えるゴミへ出すなど適正に処理してください。

原因で発生しやすくなりますので、予防的な薬剤散布も行なってください。

（3）うどんこ病

草勢の弱りやハウス内の乾燥が年明けに必ず残量を確認してください。

○うどんこ病

原因で発生しやすくなりますので、予防的な薬剤散布も行なってください。

ピーマン

●湿度管理

加温機の稼働時間が長くなるた

め、ハウス内が乾燥し、果実肥大や交配、光合成に悪影響を及ぼします。また、草勢の低下や乾燥はうどんこ病の発生を誘発しますので、天気の良い日は畠間に軽く灌水を行うなど、適度な湿度を保ちましょう。

●温度管理

午前中はハウス内温度を高く（25～30℃）保ち、夜温は17℃以上（設定温度17.5℃）で管理してください。

また、根が畠間まで伸びていますので、乾燥防止と地温確保のため畠間に堆肥等を必ず敷いてください。

●整枝

内向枝を整理し、主枝中心の整枝に努めてください。

●収穫

樹への負担を考え、M級中心に収穫してください。

●天敵放飼園

今後はアブラムシの発生が懸念されます。なるべく発生初期の防除に努めてください。防除薬剤は、ウララDF（2,000～4,000倍／収穫前日まで／2回以内）等を散布してください。アブラムシの天敵であるコレマンアブラバチやナミントウの放飼も効果的です。

また、ヨトウムシ類やクロテンコナカイガラムシの発生にも注意してください。

（4）病害虫防除について

病害虫防除については、系統の異なる薬剤をローテーション散布し、

○裂果

整理を行ってください。近年、温

暖な気候が続いている影響でアカマツカイガラムシの発生が多い状況です。剪定してからカイガラムシ防除を行つことも対策の一つです。

●病害虫の防除

カイガラムシ類（特にサンホーボーカイガラムシ）の発生している園地では収穫が終了し樹勢が回復してからマシン油乳剤95%の30～45倍又はハーベストオイル、アタックオイル60倍を散布してください。ただし、樹勢低下園やゆう早生・不知火は気象状況により枝枯れを助長する恐れがあるため3月中旬にハーベストオイル又アタックオイル80倍を散布してください。

○葉かび病・すすかび病

草勢の弱りやハウス内湿度が高

くなると発生量が多くなります。適度な換気に努めると共に早めの摘葉等を行い、予防的な薬剤散布も行なってください。

また、置き型しなもんについても年明けに必ず残量を確認してください。

○病害虫対策

摘葉を適期に行なうことや、葉かび病等の病気の予防になるだけでなく、コナジラミ等の害虫の卵や幼虫を施設外へ持ち出すことで、発生密度を減らすことが出来ます。また、

果実に光が良く当たることによる果実肥大の促進、着色スピードの向上、着色ムラの軽減、糖度の上昇、さらには農薬がより掛かりやすくなるなど、多くのメリットがあります。

病害虫が発生していない場合でも定期的な薬剤散布を実施してください。また、循環送風機の使用は予防効果がありますが、病害が発生してからは被害を拡大させますので注意してください。

○(1)黄化葉巻病

施設で越冬し、春先に再発する可

能性があるため、必ず予防的な薬剤散布を行ってください。

黄化葉巻病が発病した場合は、直ちに株元から切断又は引き抜き、地中へ埋めるか、ビニール袋で密閉して燃えるゴミへ出すなど適正に処理してください。

○整枝

内向枝を整理し、主枝中心の整枝に努めてください。

○収穫

樹への負担を考え、M級中心に収穫してください。

○裂果

整理を行ってください。近年、温

暖な気候が続いている影響でアカマツカイガラムシの発生が多い状況です。剪定してからカイガラムシ防除を行つことも対策の一つです。

●病害虫の防除

カイガラムシ類（特にサンホーボーカイガラムシ）の発生している園地では収穫が終了し樹勢が回復してからマシン油乳剤95%の30～45倍又はハーベストオイル、アタックオイル60倍を散布してください。ただし、樹勢低下園やゆう早生・不知火は気象状況により枝枯れを助長する恐れがあるため3月中旬にハーベストオイル又アタックオイル80倍を散布してください。

○葉かび病・すすかび病

草勢の弱りやハウス内湿度が高

くなると発生量が多くなります。適度な換気に努めると共に早めの摘葉等を行い、予防的な薬剤散布も行なってください。

また、置き型しなもんについても年明けに必ず残量を確認してください。

○病害虫対策

摘葉を適期に行なうことや、葉かび病等の病気の予防になるだけでなく、コナジラミ等の害虫の卵や幼虫を施設外へ持ち出すことで、発生密度を減らすことが出来ます。また、

果実に光が良く当たることによる果実肥大の促進、着色スピードの向上、着色ムラの軽減、糖度の上昇、さらには農薬がより掛かりやすくなるなど、多くのメリットがあります。

病害虫が発生していない場合でも定期的な薬剤散布を実施してください。また、循環送風機の使用は予防効果がありますが、病害が発生してからは被害を拡大させますので注意してください。

○(1)黄化葉巻病

施設で越冬し、春先に再発する可

能性があるため、必ず予防的な薬剤散布を行ってください。

黄化葉巻病が発病した場合は、直ちに株元から切断又は引き抜き、地中へ埋めるか、ビニール袋で密閉して燃えるゴミへ出すなど適正に処理してください。

○整枝

内向枝を整理し、主枝中心の整枝に努めてください。

○収穫

樹への負担を考え、M級中心に収穫してください。

○裂果

整理を行ってください。近年、温

暖な気候が続いている影響でアカマツカイガラムシの発生が多い状況です。剪定してからカイガラムシ防除を行つことも対策の一つです。

●病害虫の防除

カイガラムシ類（特にサンホーボーカイガラムシ）の発生している園地では収穫が終了し樹勢が回復してからマシン油乳剤95%の30～45倍又はハーベストオイル、アタックオイル60倍を散布してください。ただし、樹勢低下園やゆう早生・不知火は気象状況により枝枯れを助長する恐れがあるため3月中旬にハーベストオイル又アタックオイル80倍を散布してください。

○葉かび病・すすかび病

草勢の弱りやハウス内湿度が高

くなると発生量が多くなります。適度な換気に努めると共に早めの摘葉等を行い、予防的な薬剤散布も行なってください。

また、置き型しなもんについても年明けに必ず残量を確認してください。

○病害虫対策

摘葉を適期に行なうことや、葉かび病等の病気の予防になるだけでなく、コナジラミ等の害虫の卵や幼虫を施設外へ持ち出すことで、発生密度を減らすことが出来ます。また、

果実に光が良く当たることによる果実肥大の促進、着色スピードの向上、着色ムラの軽減、糖度の上昇、さらには農薬がより掛かりやすくなるなど、多くのメリットがあります。

病害虫が発生していない場合でも定期的な薬剤散布を実施してください。また、循環送風機の使用は予防効果がありますが、病害が発生してからは被害を拡大させますので注意してください。

○(1)黄化葉巻病

施設で越冬し、春先に再発する可

能性があるため、必ず予防的な薬剤散布を行ってください。

黄化葉巻病が発病した場合は、直ちに株元から切断又は引き抜き、地中へ埋めるか、ビニール袋で密閉して燃えるゴミへ出すなど適正に処理してください。

○整枝

内向枝を整理し、主枝中心の整枝に努めてください。

○収穫

樹への負担を考え、M級中心に収穫してください。

○裂果

整理を行ってください。近年、温

暖な気候が続いている影響でアカマツカイガラムシの発生が多い状況です。剪定してからカイガラムシ防除を行つことも対策の一つです。

●病害虫の防除

カイガラムシ類（特にサンホーボーカイガラムシ）の発生している園地では収穫が終了し樹勢が回復してからマシン油乳剤95%の30～45倍又はハーベストオイル、アタックオイル60倍を散布してください。ただし、樹勢低下園やゆう早生・不知火は気象状況により枝枯れを助長する恐れがあるため3月中旬にハーベストオイル又アタックオイル80倍を散布してください。

○葉かび病・すすかび病

草勢の弱りやハウス内湿度が高

くなると発生量が多くなります。適度な換気に努めると共に早めの摘葉等を行い、予防的な薬剤散布も行なってください。

また、置き型しなもんについても年明けに必ず残量を確認してください。

○病害虫対策

摘葉を適期に行なうことや、葉かび病等の病気の予防になるだけでなく、コナジラミ等の害虫の卵や幼虫を施設外へ持ち出すことで、発生密度を減らすことが出来ます。また、

果実に光が良く当たることによる果実肥大の促進、着色スピードの向上、着色ムラの軽減、糖度の上昇、さらには農薬がより掛かりやすくなるなど、多くのメリットがあります。

病害虫が発生していない場合でも定期的な薬剤散布を実施してください。また、循環送風機の使用は予防効果がありますが、病害が発生してからは被害を拡大させますので注意してください。

○(1)黄化葉巻病

施設で越冬し、春先に再発する可

能性があるため、必ず予防的な薬剤散布を行ってください。

黄化葉巻病が発病した場合は、直ちに株元から切断又は引き抜き、地中へ埋めるか、ビニール袋で密閉して燃えるゴミへ出すなど適正に処理してください。

○整枝

内向枝を整理し、主枝中心の整枝に努めてください。

○収穫

樹への負担を考え、M級中心に収穫してください。

○裂果

整理を行ってください。近年、温

暖な気候が続いている影響でアカマツカイガラムシの発生が多い状況です。剪定してからカイガラムシ防除を行つことも対策の一つです。

●病害虫の防除

カイガラムシ類（特にサンホーボーカイガラムシ）の発生している園地では収穫が終了し樹勢が回復してからマシン油乳剤95%の30～45倍又はハーベストオイル、アタックオイル60倍を散布してください。ただし、樹勢低下園やゆう早生・不知火は気象状況により枝枯れを助長する恐れがあるため3月中旬にハーベストオイル又アタックオイル80倍を散布してください。

○葉かび病・すすかび病

草勢の弱りやハウス内湿度が高

くなると発生量が多くなります。適度な換気に努めると共に早めの摘葉等を行い、予防的な薬剤散布も行なってください。

また、置き型しなもんについても年明けに必ず残量を確認してください。

○病害虫対策

摘葉を適期に行なうことや、葉かび病等の病気の予防になるだけでなく、コナジラミ等の害虫の卵や幼虫を施設外へ持ち出すことで、発生密度を減らすことが出来ます。また、

果実に光が良く当たることによる果実肥大の促進、着色スピードの向上、着色ムラの軽減、糖度の上昇、さらには農薬がより掛かりやすくなるなど、多くのメリットがあります。

病害虫が発生していない場合でも定期的な薬剤散布を実施してください。また、循環送風機の使用は予防効果がありますが、病害が発生してからは被害を拡大させますので注意してください。

○(1)黄化葉巻病

施設で越冬し、春先に再発する可

能性があるため、必ず予防的な薬剤散布を行ってください。

黄化葉巻病が発病した場合は、直ちに株元から切断又は引き抜き、地中へ埋めるか、ビニール袋で密閉して燃えるゴミへ出すなど適正に処理してください。

○整枝

内向枝を整理し、主枝中心の整枝に努めてください。

○収穫

樹への負担を考え、M級中心に収穫してください。

○裂果

整理を行ってください。近年、温

暖な気候が続いている影響でアカマツカイガラムシの発生が多い状況です。剪定してからカイガラムシ防除を行つことも対策の一つです。

●病害虫の防除

カイガラムシ類（特にサンホーボーカイガラムシ）の発生している園地では収穫が終了し樹勢が回復してからマシン油乳剤95%の30～45倍又はハーベストオイル、アタックオイル60倍を散布してください。ただし、樹勢低下園やゆう早生・不知火は気象状況により枝枯れを助長する恐れがあるため3月中旬にハーベストオイル又アタックオイル80倍を散布してください。

○葉かび病・すすかび病

草勢の弱りやハウス内湿度が高

くなると発生量が多くなります。適度な換気に努めると共に早めの摘葉等を行い、予防的な薬剤散布も行なってください。

また、置き型しなもんについても年明けに必ず残量を確認してください。

○病害虫対策

摘葉を適期に行なうことや、葉かび病等の病気の予防になるだけでなく、コナジラミ等の害虫の卵や幼虫を施設外へ持ち出すことで、発生密度を減らすことが出来ます。また、

果実に光が良く当たることによる果実肥大の促進、着色スピードの向上、着色ムラの軽減、糖度の上昇、さらには農薬がより掛かりやすくなるなど、多くのメリットがあります。

病害虫が発生していない場合でも定期的な薬剤散布を実施してください。また、循環送風機の使用は予防効果がありますが、病害が発生してからは被害を拡大させますので注意してください。

○(1)黄化葉巻病

施設で越冬し、春先に再発する可

能性があるため、必ず予防的な薬剤散布を行ってください。

黄化葉巻病が発病した場合は、直ちに株元から切断又は引き抜き、地中へ埋めるか、ビニール袋で密閉して燃えるゴミへ出すなど適正に処理してください。

○整枝

内向枝を整理し、主枝中心の整枝に努めてください。

○収穫

樹への負担を考え、M級中心に収穫してください。

○裂果

整理を行ってください。近年、温

暖な気候が続いている影響でアカマツカイガラムシの発生が多い状況です。剪定してからカイガラムシ防除を行つことも対策の一つです。

●病害虫の防除

カイガラムシ類（特にサンホーボーカイガラムシ）の発生している園地では収穫が終了し樹勢が回復してからマシン油乳剤95%の30～45倍又はハーベストオイル、アタックオイル60倍を散布してください。ただし、樹勢低下園やゆう早生・不知火は気象状況により枝枯れを助長する恐れがあるため3月中旬にハーベストオイル又アタックオイル80倍を散布してください。

○葉かび病・すすかび病

草勢の弱りやハウス内湿度が高

くなると発生量が多くなります。適度な換気に努めると共に早めの摘葉等を行い、予防的な薬剤散布も行なってください。

また、置き型しなもんについても年明けに必ず残量を確認してください。

○病害虫対策

摘葉を適期に行なうことや、葉かび病等の病気の予防になるだけでなく、コナジラミ等の害虫の卵や幼虫を施設外へ持ち出すことで、発生密度を減らすことが出来ます。また、

果実に光が良く当たることによる果実肥大の促進、着色スピードの向上、着色ムラの軽減、糖度の上昇、さらには農薬がより掛かりやすくなるなど、多くのメリットがあります。

病害虫が発生していない場合でも定期的な薬剤散布を実施してください。また、循環送風機の使用は予防効果がありますが、病害が発生してからは被害を拡大させますので注意してください。

○(1)黄化葉巻病

施設で越冬し、春先に再発する可

予防防除に努めてください。コナジラミ類・アザミウマ類には粘着シートの設置も効果的です。

キュウリ

摘心は葉が混み合つていれば1節止めにし、過剰な摘葉は避け、収穫果が見える程度に行ってください。追肥の量は少なめで、雌花数に応じて増減させてください。

果実肥大が認められてからは全体的に温度を上げ、肥大を促してください。また温度を上げるために灌水量も増やし、通路は乾かしすぎない程度にして下口(9時~14時)はハウス内温度を28~30度を維持し、14時以降は徐々に下げ、夜間は最低13度になるように設定してください。曇雨天時は日中23度に設定し、葉つゆを乾かしましょう。

病気は、べと病・灰色かび病を中心防除してください。

ブロッコリー

●防除薬剤

花蕾発生時期に降雨が多いと、ベと病の発生が懸念されますので、予防散布に努めてください。

・ベと病:ラノマンフロアブル^(2,000倍)／収穫3日前まで／3回以内

●追肥

花蕾の大きさが50円玉程度の時に、NK化成2号を10g当たり2袋程度施用してください。早すぎる追肥は、異常花蕾の原因にもなります。

すので注意してください。

●灌水

低温乾燥により、収穫時期は遅れます。乾燥が続く場合は、出来だけ午前中に灌水を実施してください。

●収穫

雨天の収穫は、必ず水分を取り除き(乾かす)箱詰めを行ってください。しまりの良い花蕾を選び収穫し取り遅れにならないように注意しましょう。

豆類

○ハウスウスイ

灌水は出来るだけ晴天の日の午前中に行ってください。畠間灌水は過湿となり根痛みやべと病、さび病の発生の原因になるため、できるだけ灌水チューブを使用し灌水してください。

○空気蒸の発生を抑制するための3つのポイント

- ・朝はハウス内温度の上昇を待つてから換気を行ってください。
- ・日中(特に午前中)の温度確保
- ・夕方も早めに閉めて温度確保に努めてください。

○キヌサヤ

花蕾発生時期に降雨が多いと、ベと病の発生が懸念されますので、予防散布に努めてください。

・ベと病:ラノマンフロアブル^(2,000倍)／収穫3日前まで／3回以内

花蕾の大きさが50円玉程度の時に、NK化成2号を10g当たり2袋程度施用してください。早すぎる追肥は、異常花蕾の原因にもなります。

風通しを良くし、光が良く当たるようにならない枝は草勢を見ながら早期に取り除いてください。また、蔓と極端に草勢が低下します。誘引紐を緩め、自然に蔓の重みで下がる程度としてください。

●病害

例年1・2月の降雨後に灰色かび病等、病気の発生が多くなりますので、薬剤散布を行い予防に努めてください。

にんにく

水が溜まりやすい排水不良園では、春腐病の発生が懸念されるので、防除及び排水対策に努めてください。また、気温が高くなつてくるとアブラムシの発生にも注意し適期防除を行ってください。

春腐病 ICボルドー66D(50倍)
／発病前~発病初期(一)
アブラムシ類・ネギコガ

ハチハチ乳剤(1,000倍)
モスピラン顆粒水溶剤(4,000倍)
モスピラン顆粒水溶剤(4,000倍)
2回以内／前日まで／2回以内

カスミソウ

2番花の仕立てでは、伸びてきた芽で生育の揃った4本程を残して整理を行ってください。芽が伸長してきたころに換気を始めますが、急激に行うと株にストレスを与え生育に影響が出るため、直接風が当たらないように徐々に換気を行ってください。ビニール除去後は害虫の発生に注意し、早めの防除を心掛けてください。

※玉出荷限定の薬剤です。ニンニクの芽を出荷される方については上記の薬剤は使用できません。

【お詫びと訂正】

現在配布しております。『令和8年度梅病害虫防除歴』におきまして、休眠期のキクイムシに散布するガットキラーがガットカラートとなつておりました。お詫びして訂正いたしました。

花き類全般



スターーチス

ハウスを閉め切ることが多くなると、灰色かび病の発生が多くなることが予想されます。灰色かび病は一度発生すると防除が難しくなるため、発前の予防を重点的に行なってください。日中は換気や送風を十分に行い、湿度が高くならないよう心掛けください。薬剤散布では系の違う農薬をローテーション散布することで薬剤抵抗性がつかないよう努めてください。また、枯死した葉も灰色かび発生の原因となりますので、できるだけ除去してください。

